

ロータリーは「賞」 に挑戦の必要なし

北見西 石川 巖

十月号の「地区大会に皆出席賞を贈つてはどうか」について、善意あるロータリアンの、心の奥から自然に滲み出る「奉仕の心」これに裏付けされた「奉仕の実践」に対して顕賞することには、いささかの疑念も抱きませんが、一定の賞を事前に設けて、これに向けて受賞せんがために、心の伴わない即物的な「えせ奉仕」は、ロータリアンとして恥ずべき行為ではないでしょうか。

眞のロータリアンは、賞があるから行動するのではなく、何と言つても自らが考え汗して、地域社会のニーズに応え得た満足感が、

最高の賞でありしあわせであつて欲しいものです。

クラブ例会出席一〇〇％は、会員の会員たる最後のトリデ、各種大会参加も自らのロータリアンたる資質向上のためであれば、皆出席もまた当然、会員増強もまた自クラブの器量に応じた増加が大切で、増強後に退会者が同数またはそれ以上見られる増強は問題外、ロータリーはひたすら心の問題でありましょう。またそうあつて欲しいものです

(病院・51歳・会員歴14年・北海道)